



学校法人 就実学園
相談役
青井 賢平さん

産業の内発的・外発的な 振興と国際化を

青井 建国1300年の記念事業を考えた時、美作地域や津山を売り出していくために、箕作阮甫などの洋学に関連した偉人をどのようにPRしていくのか、B級グルメのホルモンうどんをどのように打ち出していくのかなど、戦略を練ることは重要なことです。

わたしは、美作国が誕生した時代のまちなみを再現しても面白いと思います。史料によれば4月3日に美作国、丹後国（京都府）、大隈国（鹿児島県）の3つが建国された記録が残っています。この3つの国のまちと姉妹都市縁組をして、観光大使などが交流するのはどうでしょう。津山は歴史ロマンのあるまちなので、洋学や城下町などまちを活性化させるためのテーマが見つかると思います。

まちづくりのポイントは、内発的・外発的といった二方面からの産業振興をどのように進めていくかだと思います。これから人口は減少し、経済も縮小して行くことが予想されます。これを観光振興だけで盛り返していくことは難しいと思います。それを補うためには新しい産業おこしと企業の誘致が重要です。観光と産業が協同したまちづくりが必要でしょう。

さらに、これらの国際化も視野に入る必要があります。日本が開国して約150年、地方都市においても海外交流がなければ経済活動が成り立たない社会になっています。市を挙げた新しい産業育成と海外戦略をどのように進めていくかがもう一つのポイントになるでしょう。



平成25年には、年には、美作国が誕生して1300年の年を迎えます。このことを記念し、市では、関係市町村と協力して平成24年度から「美作国建国1300年記念事業」を行います。

そんな明るい兆しのある新年を迎えるにあたり、5人の市政アドバイザーをお迎えして、新春座談会として、まちづくりについてさまざまなご意見をいただきました。

新春特別企画 市政アドバイザー 新春座談会

美作国建国1300年記念事業とまちづくり

分野ごとにターゲットを 絞った戦略を



東京国際エアカーゴターミナル(株)
経営企画室長
岡本 電馬さん

岡本 美作国建国1300年を記念して津山を全国に売り出すために「美作」を掲げることは良いことだと思います。江戸時代には現在の行政区分より広い「藩」という単位で政治や経済が動いていました。文明の進んだ現在で活動の範囲が狭くなることはおかしな話です。からね。美作を売り出すために、関係する自治体が一斉に同じことに取り組むことは時間を要するでしょう。従って、それぞれが思い思いに活動を展開し、その活動をマップでくくって、統一ブランドとしてPRしていくことも選択肢の一つだと思います。

「今だけ、こっだけ、あなただけ」を意識して、分野や各世代に望まれることを伸ばしていく姿勢が必要だと思います。津山には洋学の歴史があります。

すし、最近ではホルモンうどんの知名度が上がっています。それらが全ての世代や人びとに受け入れられる必要はなく、興味のある人や良さが分かる人に向けて、より細かく、深く戦略を作っていくことが得策です。

昭和40年代の津山は都会のイメージがありました。現在のように衰退してしまったのはなぜでしょう。津山には歴史・由緒があります。その「誇り」を持つべきだと思いますが「驕り」になつては残念です。駅と駅前はそのまち全体を象徴すると言われていました。今の津山は駅前から大手町にかけての衰退の具合が大きいと感じています。これを食い止め、発展させることが、これからの津山にとって、重要な課題と捉え、取り組んでほしいと思います。

自然と歴史的景観が 美しいまちづくりを



象設計集団
建築家
富田 玲子さん

富田 「美作」という地名の由来は諸説あるようですが「美しい国を作る」とも読み取れる、素晴らしい名前だと思います。この美しい国の建国1300年をきっかけとして、さくら街道計画というのはどうでしょうか。桜前線が北上する速度は、人が歩く速さより少し速いと言われています。沖繩から北海道まで、桜前線を感じながら、人が歩いたり、走ったりできる桜の遊歩道ができれば良いですね。さくら街道の途中にはカフェやお団子屋などを配置して、全国を縦断するさくら街道が、まずは鶴山公園を中心として、津山から全国に広がっていけば素晴らしいですね。

も軒の低い家が並んでいたと思いませんか。ところが久しぶりに津山を訪れて驚きました。大きな建物もともと道路だった所に建設され、出雲街道を断ってしまったっていました。これはとても残念に思いましたね。これからは景観を守るためにも、なるべく小さな建築物でまちをつないでいく方が良いと思います。

津山洋学資料館の設計を行った際は、歴史的な景観を残す城東町並保存地区に新しい建築物をどのように溶け込ませたら良いかを熟慮しました。そして、施設の利用についても大人や子ども、洋学の研究者や一般の人など、いろいろな人が気軽に訪れられることも考えました。まちづくりに関してはそのような視点で景観を守ることに重点を置いて進めてほしいですね。

平成6年に初めて津山を訪れた時「とても美しいまちだ」と思い、感動したことを覚えています。吉井川沿い